



懸腰山の鐘

かつては、一日三回時を知らせ、朝は「懸腰山の鐘が鳴るぞ、起きろ」と子供たちを起こし、昼は畑で聞いて昼休みにし、夕方の鐘で家路に急ぐといったように人々の生活に密着していた。写真は、昭和16年(1941)の春、戦争のために供出される際に撮影されたもの。

懸腰山の鐘  
かつては、一日三回時を知らせ、朝は「懸腰山の鐘が鳴るぞ、起きろ」と子供たちを起こし、昼は畑で聞いて昼休みにし、夕方の鐘で家路に急ぐといったように人々の生活に密着していた。写真は、昭和16年(1941)の春、戦争のために供出される際に撮影されたもの。



日蓮大菩薩懸腰所の石碑



日蓮聖人をまつる祖師堂



市内唯一の名勝 **懸腰山**

※写真は、湯沢公園からの風景。写真右端のお堂がある場所が懸腰山。



懸腰山の位置 (南アルプス市湯沢1345-1)

文化財には実にさまざまな種類がありますが、中には美しい風景そのものが文化財とみなされる例もあります。このような美しい風景は「名勝」と呼ばれ、とくに優れたものは国や県、そして市の指定文化財となっています。国指定の名勝では甲府の「御嶽昇仙峡」や松尾芭蕉が言葉を失った宮城県の「松島」などが有名です。

じつは市内にも一件だけ、文化財指定された名勝があります。それが湯沢地区にある市指定名勝「懸腰山」です。そこは鎌倉時代に日蓮聖人が自らの教えを広めるために各地を巡る途中、老松に自らの袈裟を掛け、かたわらの岩に腰をかけてしばし休息しながら景色を眺めたといわれる場所で、甲府盆地を一望できる絶景です。日蓮聖人がしばし腰をかけたことから「懸腰山」と呼ばれます。ここには、のちに弟子の目了によって石碑が建てられ、江戸時代の初めには、聖人をまつるお堂が建てられて、湯沢の本清寺の別院(奥の院)となりました。

甲府盆地を見渡せるこの懸腰山にはかつては鐘楼があり、戦争のために供出されるまで一日三回時を知らせ、ひろく地域の人々に親しまれていたそうです。また、この地域では小学校の遠足は懸腰山と決まっていました。

日蓮聖人が袈裟をかけた松は何代目の松にかわり、鐘の音も今はありません。しかし近年は広域農道の整備に伴って作られた湯沢公園からも、昔と変わらぬ絶景を楽しむことができます。日蓮聖人がしばし見とれた風景を見に出かけてみてはいかがでしょうか。文化財課

(※) 懸腰山は、けんわさんとも呼ばれる場合があります。